

廃校施設を 障害者スポーツ施設に

江戸川大学小林ゼミA

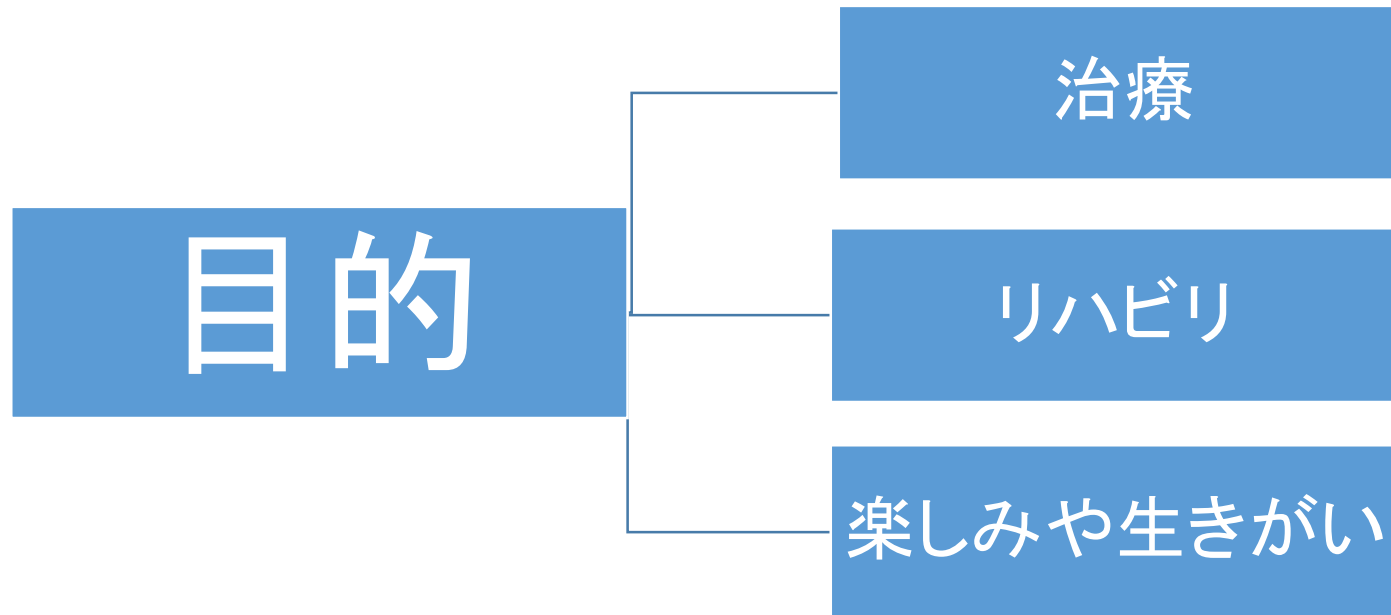
箭内克樹 椎葉凌 井出悠喜

町田加代子 茂泉歩夢 青木一征

1. 緒言

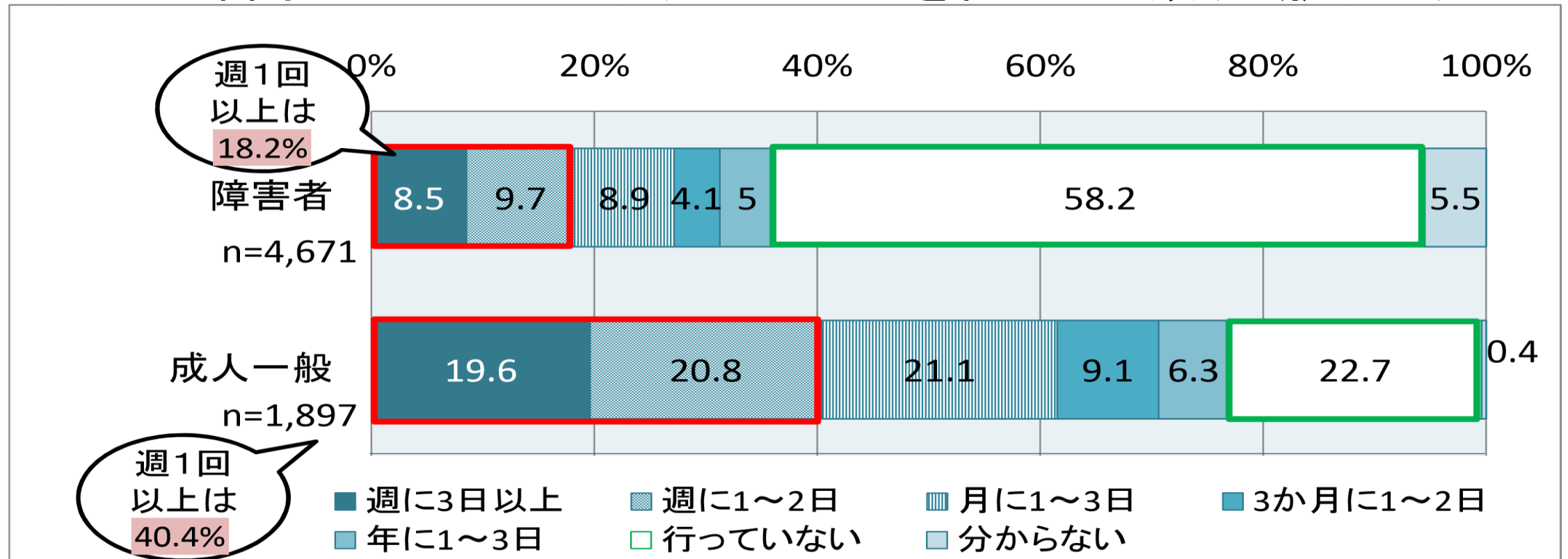
- 障害者スポーツとは？

身体障害や知的障害がある人が 行うスポーツ



障害者の運動率

- 過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数(20歳以上)



出典 文部科学省 スポーツ実施率 平成25年

さらに

• ヨーロッパ ➤ 日本

新しい施設を作るのは？

• 多くの費用 + 場所

そこで廃校施設を利用することが出来れば？

• 少ない費用 + すでにある場所

廃校施設数

廃校数	5801校
施設として活用	3587校
活用の目途あり	432校
活用の目途なし	1081校

そこで私たちは！

廃校施設を
障害者スポーツ施設として
活用することを
提案します！！

2. 現状

松戸市健康福祉会館Aさんの話



すでにある環境を利用し
運動の環境をより充実させる

指導員が活動する
ところが少ない

現在、日本には

- 22591人の障害者スポーツ指導員



活かせる場所がない！

3. ヨーロッパ各国と日本の比較

財政支援・施設環境・政策

比較！

ドイツ

財政支援	有り 仕事との両立の援助あり
施設環境	公共の施設を利用 障害の有無による区別は無し
政策	医療保険が適用 16州すべてが障害者平等化

フランス

財政支援	有り 財政支援は継続的に増加
施設環境	サントル州にスポーツと障害者の拠点が設置
政策	障害者基本法が決められている

スウェーデン

財政支援	有り 様々な助成金をウェブサイトで紹介
施設環境	健全者と障害者が一緒に生活する環境あり
政策	個人の意思と決定により参加を保証 社会サービス法が決められている

日本

有り

財政支援

施設環境

政策

継続的にスポーツ活動ができる環境が整っていない

スポーツできる場が、有効に活用されていない

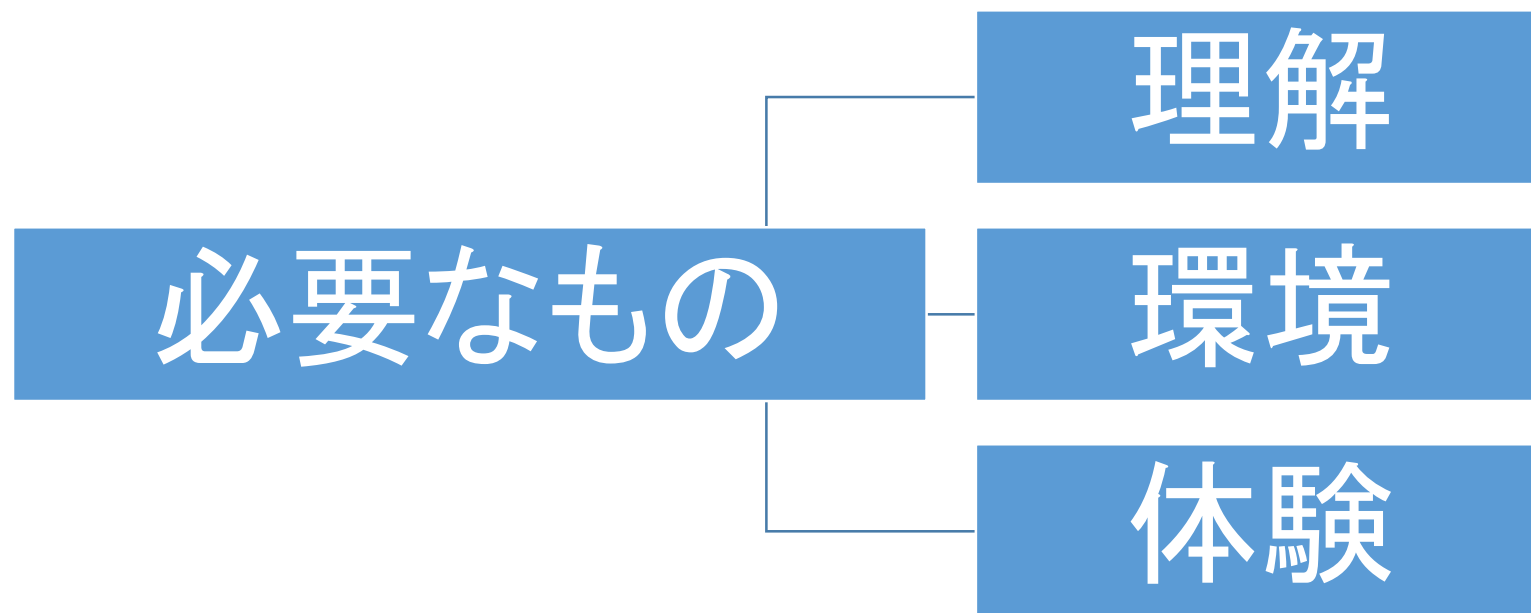
健常者と障害者がともにスポーツするための取り組みを推進

3-2. 比較の結果

特に運動する環境はまだまだ！

5. まとめ

調べて分かったこと



環境を整える手段として！

私たちは、

廃校施設を活用することを
提案します！

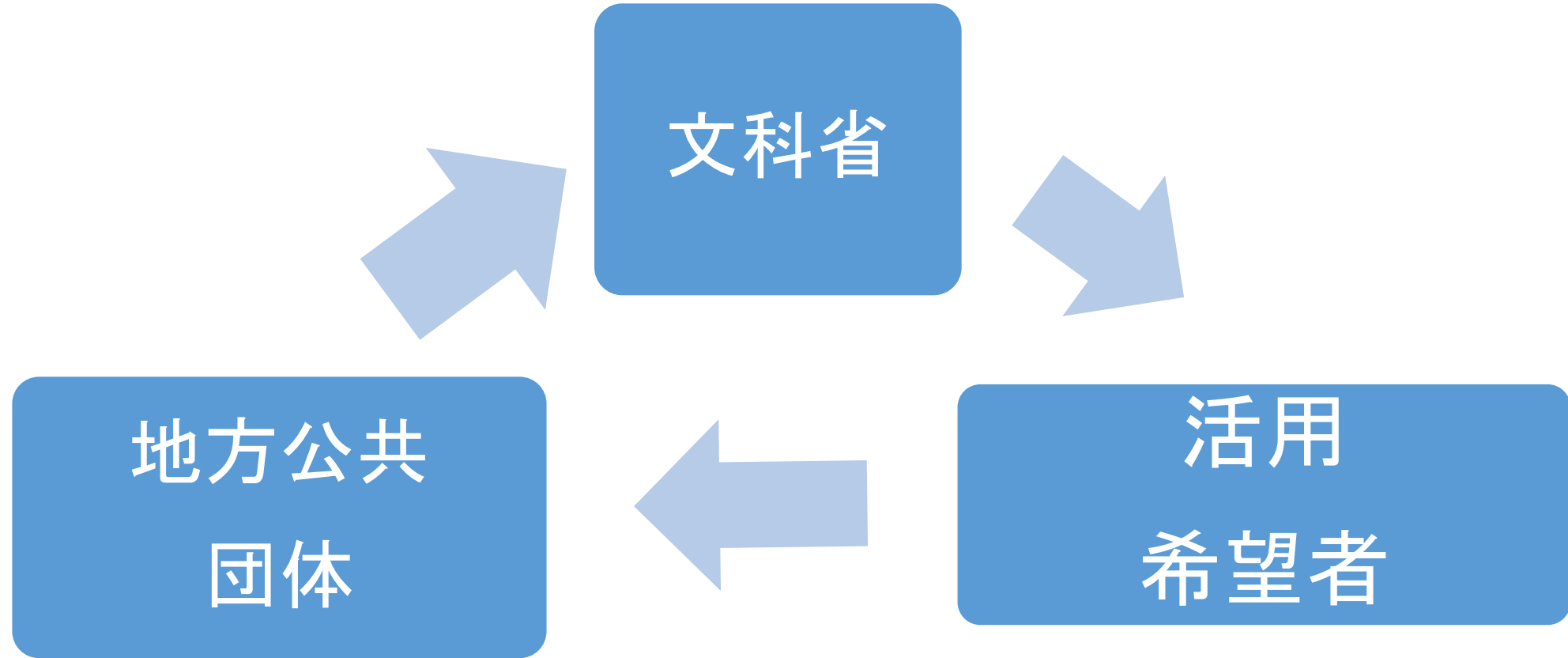
現在、文部科学省では

～未来につなごう～

「みんなの廃校」

プロジェクト

システム



利用例

- ・障害者支援施設 ふれあい工房 あぎし



廃校施設等の活用メリット

- 同規模の建物を建設するのに比べ費用を最小限に抑えられる
- 地域に密着した事業展開の際、地域の理解を得られやすい

このメリットを利用！！

- 低コスト

⇒ 全国規模に障害者スポーツ施設が増加

⇒ 障害者スポーツ指導員の需要が増加

- 学校施設を拠点

⇒ 地域の人々との触れ合い増加

⇒ 多くの人々が障害についての理解が深まる



より気軽で安心してスポーツを取り組める

政策提言により

- ・日本の障害者スポーツの環境発展

2020年 東京パラリンピック

ヨーロッパレベルまでの引き上げ

ご清聴ありがとうございました